

テングノコツチの新産地と分布

著者	米澤 信道
著者別表示	Yonezawa Nobumichi
雑誌名	植物地理・分類研究
巻	37
号	1
ページ	25-26
発行年	1989-06-25
URL	http://doi.org/10.24517/00055991

氏名略号：AG：足立軍一，AT：尼川大録，BY：馬場義仲，HK：本間健一郎，HY：堀與治，IS：石沢進，ISA：伊藤三郎，IY：池上義信，KK：加藤嘉代治，MS：村井貞固，MY：森山美具，OS：大平正平，OT：尾崎富衛，SE：佐久間瑛二，SH：白崎仁，SHI：笹岡久彦，SM：鈴木実，SS：斎藤慧，TS：高木仔，TT：寺下友三郎，UN：宇井縫蔵，Yano：矢野孝二，YH：柳田宏光，YK：八木一男，YY：湯沢陽一。

引用文献

藤田 進，1984. オオコメツツジ. 新潟県植物分布図集第5集：289-294. コーエイ印刷（新潟）.
Horikawa, Y. 1972. Atlas of the Japanese Flora. An introduction to plant sociology of East Asia. 471pp. Gakken Co. Ltd, Tokyo
今村幸治，1987. ホナガクマヤナギ. 新潟県植物分布図集 8：185-190. コーエイ印刷（新潟）.
石原健二・田所 裕，1973. 年最大積雪深平年値の4 km メッシュマップ作成に関する研究—東北地方日本海側の部—. 雪の基礎資料 No. 6 (勅日本積雪連合資料 No. 121).
——. 1974. 年最大積雪深再現期間値，積雪日数平年値の4 km メッシュマップ作成に関する研究—長野地区（長野県）の部—. 雪の基礎資料 No. 7 (勅日本積雪連合資料 No. 122).
——. 1975. 年最大積雪深その他の積雪要素の4 km メッシュマップ作成に関する研究—東北地方太平洋側，長野県の部—. 雪の基礎資料 No. 8 (勅日本積雪連合資料 No. 124).
石沢 進，1987. 離島の植物 7. (8)佐渡にあって越後のフォッサ・マグナ地溝帯に分布を欠く植物.

新潟県植物分布図集第8集：436-444. コーエイ印刷（新潟）.

金井弘夫，1972. 日本植物の分布型の研究(3)，産地の表示法について. 植物研究雑誌 47：215-221. 気象庁，1972. 全国気温・降水量月別平年値表.
牧野恭次，1987. 着生シダ3種の生態分布. 新潟県植物分布図集 8：430-431. コーエイ印刷（新潟）.
日本積雪連合，1974. 豪雪地帯における雪寒メッシュマップ調査.
——. 1976. 豪雪地帯における年最大積雪深，積雪日数，年最大降雪量の4 km メッシュマップ作成に関する研究. 雪の基礎資料 No. 9. (勅日本積雪連合資料 No. 125).
西田 彰・茅原一也，1984. 柏崎—銚子線にまつわる諸問題. 地質学論集 No. 9：9-24.
白崎 仁，1984. エビゴケの生態分布. 植物地理・分類研究 32：59-67.
——. 1987 a. エゾムチゴケとヨシナガムチゴケ(苔類)の生態分布. 植物地理・分類研究 35：27-35.
——. 1987 b. ウニバヒシヤクゴケとコヒシヤクゴケ(苔類)の生態分布. 植物地理・分類研究 35：112-126.
山口富美夫，1987. シラガゴケ属の分類形質(第16回大会講演要旨). 日本蘚苔類学会会報 4：147, および書信.
山下 昇，1970. 柏崎—銚子線の提唱. 島孤線海洋 179-191. 東海大出版会.
矢野孝二，1954. 蘚類数種の染色体VII. スギゴケ科2属及び他の8種の染色体. 植物学雑誌 67：243-246.

(Received July 15, 1988)

○ テングノコヅチの新産地と分布 (米澤信道) Nobumichi YONEZAWA: New Growing Districts and Distribution of *Tripterospermum involubile* YONEZAWA

筆者は，本誌第36巻第1号で，ツルリンドウ属の新種テングノコヅチ *Tripterospermum involubile* YONEZAWA を記載発表した，その後いくつかの新産地が明らかとなったので，報告する。

筆者は，1978年夏，南アルプスを縦走した際，易老岳付近の稜線でツルリンドウ属植物を不審に思い採集している。これは，今日検討してみると，テングノコヅチであることが判明した。次に，福井県在住の渡辺定路氏から，福井県の白山山系(6地点)にて，氏が精力的に採集されていた標本の同定依頼があった。検討してみると，いずれもテングノコヅチであり，早期から疑問に思い研究されていた氏に，敬意を表する次第である。

その後，山形県在住で「鶴岡自然調査会」の木根渕登志子氏より，1988年夏鳥海山で採集された標本の同定依頼があった。これもテングノコヅチで，やや狭葉になるものである。中部山岳地帯からはかなり離れた産地だけに，いささか驚きの念を持った次第である。以上，記載発表後，相次いで新産地が分かり，大ざっぱながら，Fig. 1のように北陸・中部から東北にかけての水平分布が明らかとなった。また，垂直分布を見ると，標高1350 m～2300 mの範囲で，ほぼ亜高山帯にあたる。西穂高岳(タイプローカリティ)の産地から，本種の絶滅の危険性を感じていただけに，このことは実に喜ばしい。渡辺定路，木根渕登志子両氏の地道な研究に対して，敬意を表するとともに，心から感謝申し上げる。

新産地

Pref. Shizuoka, Shizuoka City: Near Mt. Irodake, alt. ca. 2300 m, Aug. 7, 1978. N. YONEZAWA.

Pref. Fukui, Ono City: Mt. Akasagiyama, alt. ca. 1600 m, Aug. 13, 1979. S. WATANABE No. 16912; Mt. Shakushidake, alt. ca. 1350 m, Aug. 10, 1983. S. WATANABE No. 23453; Mt. Kyogatake, alt. ca. 1600 m, Sept. 24, 1984. S. WATANABE No. 25914; Mt. Sannomine, alt. ca. 1960 m, Aug. 3, 1987. S. WATANABE No. 29713.

Pref. Gifu, Gujo-gun, Shirotori-cho, Itoshiro: Mt. Dainichidake, alt. ca. 1650 m, Aug. 13, 1988. S. WATANABE No. 30701.

Pref. Ishikawa, Ishikawa-gun: Mt. Hakusan-Shakadake, alt. ca. 1800 m, Sept. 14, 1988. S. WATANABE No. 30857.

Pref. Yamagata, Sakata City: Mt. Chokaisan, on the half way to the top, alt. ca. 1500 m, Aug. 25, 1988. T. KINEBUCHI.

(〒 606 京都市左京区上高野大明神町 19-1 Daimyojin-cho 19-1, Kamitakano, Sakyo-ku, Kyoto 606)

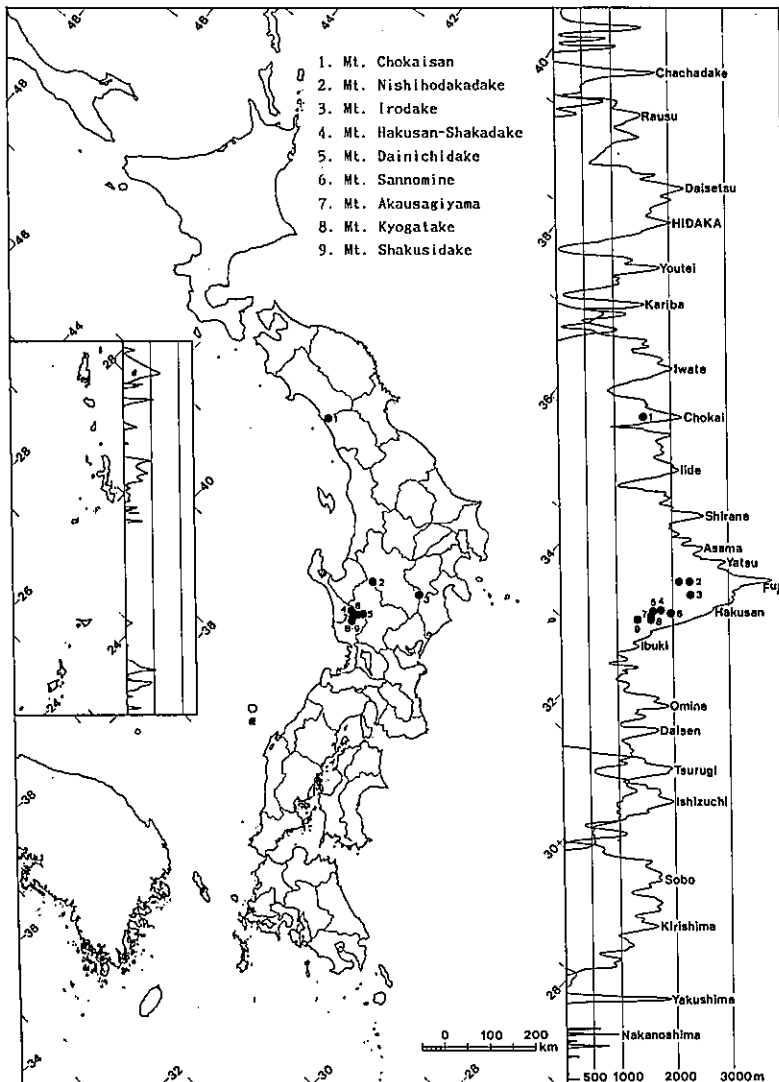


Fig. 1. Horizontal and altitudinal distribution of *Tripterispermum involuile* YONEZAWA